

上映映画のご紹介

『若い人』 [1962年 日活] (カラー)

監督・脚本 西河克己

【出演者】 吉永小百合、石原裕次郎、浅丘ルリ子、大坂志郎、小沢昭一



あらすじ

石坂洋次郎の原作小説の三度目の映画化。私生児である江波恵子(吉永)は、数学教師の間崎(石原)に男性としての興味を抱き、その好奇心と情熱をぶつける。しかし間崎は同僚の橋本(浅丘)に好意を抱いている。ある日恵子が妊娠したとの噂が流れたことから、3人の関係は微妙なバランスを崩していく。父親不在で、女子校に通う恵子が、思春期特有の感情である異性への興味に目覚め、そのため周囲の大人たちは彼女に振り回されるのだが、恵子を演じるのが吉永小百合では、そんなキュートなわがままぶりも歓迎されるというもの。この作品での裕次郎は、終始吉永の演技を「受ける」立場にあり、浅丘の英語教師に対しても受動的に対応する役どころであるにも関わらず、二枚目は二枚目。女子高生たちの人気投票で首位を獲得する、若く明朗な教師を伸び伸びと演じている。橋本の若ハゲの叔父に扮した小沢昭一が、絶妙な個性で画面をさらう。(映画アナリスト：斉藤守彦) なお能代市出身の大坂志郎も出演しており、なつかしい。

【合唱候補曲】 寒い朝、いつでも夢を、勇気あるもの、下町の太陽、北上夜曲、風、他
☆彡 明るく、楽しく、懐かしく、若やいで ~~~~~(♪) ♡♡♡♡

『青い山脈』 [1963年 日活] (カラー)

監督 西河克己 脚本 井出俊朗、西河克己

【出演者】 吉永小百合、浜田光夫、高橋英樹、芦川いづみ、田代みどり、織田政雄、三島雅夫、藤村有弘、北林谷栄、左ト全、清水将夫



あらすじ

ある地方の町で、女学生の寺沢新子(吉永小百合)は六助(浜田光夫)と交際を始めるが、そんな新子の元にラブレターが届けられ、それはいつしか町全体を揺るがす大騒動にまで発展してしまう… これまで幾度となく映画化されてきた石坂洋次郎の同名小説を、当時の日活青春映画のスタッフ・キャストで映画化。監督はリメイクものに定評ある西河克己で、脚本を1949年版『青い山脈』(これが初の映画化作品)を担当した井手敏郎が手がけているのも興味深い。当時の日活ならではの明朗快活な叙情性は、この素材にぴったり合っていたようで、プログラム・ピクチュアとして及第点であること以上に、観ている側も数十年前の青春群像をむしろ新鮮な趣で微笑ましく見つめ続けることができるのが、何よりもうれしい。(映画文筆業：増當竜也)

【講演会】『吉永小百合が慕った「青い山脈」の作家』講師：築瀬均(湯沢市教育委員)

(講師ひとこと)「青い山脈」でラブレターを間違ってもらった地味な女先生が「私の大叔母」で、石坂洋次郎先生と同職でした。女生徒に愛され、妻に嫉妬される石坂の真相を知っていた。その体験が小説になった。講演で吐露します。私は大叔母と同じ村生まれ。石坂に憧れるが、地味な半生を送ってきました。